

第7回高等学校改革プラン推進委員会（第一推進委員会）議事録

- 1 日時 平成17年9月10日（土）午前9時30分～午後0時30分
- 2 場所 長野県職員センター 101・102・103号室
- 3 出席委員

中村 正行委員長	市川浩一郎委員
森野 貞雄副委員長	清水 保委員
青木 一委員	坂口 昌夫委員
中沢 一委員	小山 壽一委員
小山 元彦委員	宮本 精一委員
塚田 芳樹委員	丸山 稔委員

4 開会

（中村委員長）

おはようございます。

5月の29日に第1回の推進委員会を開催させていただいて以来、ほぼ月に2回開催してきました。これで7回目となります。日程の上ではほぼ中ほどだと考えています。委員の皆さんにはお忙しいところ、毎回時間のやりくりをしていただいて、出席していただいてありがとうございます。

本日も魅力ある高校の議論、それから多部制・単位制、総合学科高校等、続きの議論をしていきたいと思います。前回候補案の詳しい説明が事務局から示されております。その資料を十分お読みいただいていると思います。それを取っかかりとしてさらに進めてまいりたいと思います。

また地域からの情報、あるいは各委員さんがお持ちの情報がありましたら、資料説明の後でまたご紹介いただいて議論に生かしていきたいと思います。

今日の議事のほうは、第6回の前回の議論の中で出てきましたところ、もちろんほかのところもやりますが、その辺を中心にしていきたいと思いますので、議事に入る前にわたしのほうで第6回のところでどんな議論が出てきたかということ、ちょっと述べたいと思います。

よろしくお願いいたします。

それでは資料説明、その後各委員さんからの情報提供、それから議事というふうに進めていきたいと思います。

まず、資料説明を事務局からお願いいたします。

5 資料説明

高校教育課三澤教育支援主事から資料説明 【説明内容省略】

(中村委員長)

ありがとうございます。

まず資料に関する疑問点等ありましたら、ご質問というかたちで出していただきたいと思います。何かございますでしょうか。

(坂口委員)

お願いいたします。

福島県の総合学科高校について、資料を今回いただきましたが、長野県と近い形でいろいろできるということで平成8年から総合学科を設置していると。数は非常にありますが、募集定員がここに記載されておりますが、現実に生徒の応募状況とか、あるいは倍率ですかね。そういった生徒が、この設置してある総合学科、総合高校にどのような応募状況か、定員をかなりオーバーして応募しているのか、あるいは割れているような状況が見られるのか、もしそういった数字があれば教えていただければありがたいと思います。

(中村委員長)

事務局、準備はございますでしょうか。

(三澤教育支援主事)

概要として総合学科の例につきまして調べさせていただきましたので、応募状況等は調査しておりません。またお時間をいただければ、次回の時にでもお話をさせていただければと思います。

(中村委員長)

はい、それとあと、段階を追ってといいますか、毎年1校、2校というふうに設置してきているのは計画に基づいてやっているわけですね。ですからこういう状況を見ると、途中でやめようということではなさそうですので、その辺の状況というのも、福島県の方にお聞きしたいと思います。

(三澤教育支援主事)

了解いたしました。その辺までを含めまして、次回もう一度ご説明させていただければと思います。

(丸山委員)

福島県の資料でひとつ質問があります。

この8校ですか。8校あるのは設置経緯のところに説明がありますが、これは2校あるいは3校統廃合した結果つくったというものはあるのでしょうか、ないのですか。もしあるとしたらどうですか。

(三澤教育支援主事)

設置経緯を見ますには、福島県の高校の例では単一の学校、普職併設の学校が中心になるかと思いますが、そこを転換して総合学科としているケースが多いと思われます。統合等の状況については、ちょっとこの資料だけでは分かりませんが、感じからすると単一の学校の転換ではないかと思われます。

(中村委員長)

その辺、次回までに調べていただけますか。

ほかにございますでしょうか。

またお気付きの点があれば、議論の途中でも構いませんのでお願いします。

それではあと、各委員さんが得られている情報がありましたらお願いしたいとおもいますが、何かございますでしょうか。

(青木委員)

前回、第6回推進委員会開催以来、新たな動きであります。実はその以前の段階に懇談会が設置されました。「高校問題を考える懇談会」。正式名は、「高校問題に関する懇談会」ということで、どちらかというと私どもが、市の教育委員会がピックアップした3高校、また中学校、小学校の学校評議員さんで組織された8名の委員さんで懇談会を設けました。

その懇談会の席上、地域を挙げて地域の高校を考えていきたいと思います。私ども中野市では3校のうちの1校、2校が統廃合されて新たな総合学科という提案をいただいているわけありますので、これは地域の問題として考えなければいけない。1つ、2つの高校PTA、同窓会の問題だけではないという考え方からこのような会を設けました。

そして目標は秋ごろに幅広く市民の皆さんに声をかけて、共に考えようという市民会議と申し上げますか、シンポジウムの形で申し上げますか、そのような会合をする前段階の準備会、そのために、県教委の提案してくださった候補案について言葉の部分も含めてしっかり学習する必要があるだろうということで、テーマを3つ掲げたようであります。

ひとつは県教委の考え方をまず学習すること。それからこの推進委員会の審議の状況を過去開かれたすべて経過等を含めて、また今後の進め方等を含めて、学習をする。

それからもうひとつが大きな問題であります。いったい総合学科高校というのはどんな高校なのかということをしかりと学習しよう。この3点の学習会を、先ほど8名と申し上げましたが、さらに輪を広げまして、約40名近い方々で組織された準備会的なもので学習会を開き、そしてある程度テーマが絞り、問題点を把握できたならば、その市民会議というところに持っていこうというような動きであります。

基本的な姿勢は県教委が示したものに対する、反対、賛成というシュプレヒコール的なものではなく、やはりこの大きな投げかけられた課題を座視しているものだけではないと、しっかり自分たちもその中に入り込んで考えようという、非常に前向きな市民会議的なものを目指しているように私には見えます。

そのことを報告します。

(中村委員長)

ありがとうございました。

(中沢委員)

9月4日に坂城高校で葛尾祭という生徒会のお祭りがありましたが、そのときに高校改革プランということで、いろいろ討論の場が設けられ、私も出席したところでございます。そういう中で坂城高校が呼び掛けて、野沢南、松本筑摩高校、そして長野南等の皆さんが集まり、また時にはいろいろな方が出ていたわけですが、そういう中で高校生の論議が高校改革プランというものがどういうものかということ以前に、「自分たちの学校はどうなっちゃうんだ」「困っちゃった」ということへの不安感が、まず先走っており、そしてまたこういったことに悩ませ不安を与えるということは、いいことではないなという思いもしたわけでございます。

その子どもたちが、地域の中において、高校というものをどういうふうに見止めていくかということまでには達していないなど。そういう中では、このプランの啓発がより必要かなという思いもしたところでございます。

そういうものを踏まえると、今日は私も多部制・単位制ということで、坂城高校についていろいろ申し上げておりましたので、より時間がございましたら具体的に提案させていただいて、できるだけ方向をしっかりと、この会としても進めていただいたほうがいいかなと、こんな思いもするのでご報告申し上げます。

(中村委員長)

ありがとうございました。

(小山(元)委員)

飯山岳北地区のことでご報告申し上げたいと思います。

8月25日の午後3時から4時半まで、「飯水岳北地区高校の将来を考える会」が8月8日に総会を持ったのですが、その方々を中心にしながら中学、地域の方々に呼び掛けまして、約90の方が集まりまして、県教委との意見交換会を持たせてもらいました。

当日吉江課長さんはじめ、3人県教委の高校教育課からお見えいただきまして、1時間半にわたりまして、意義ある交換会ができたと思います。

地域の方々は県教委の示された、飯山照丘高校、飯山北高校、飯山南高校の3つを統合して1つにしたいという案を示されたのですが、それについて詳しく説明していただき、また地元とすれば地元としての考えがございますので、それは率直に申し上げて意義ある意見交換会になったと思います。

なお、この「飯水岳北地区高校の将来を考える会」の開催は次回は9月下旬に行いまして、先を見通した考えを深めながら方向を示していきたいと、そういう現在の立場でございます。

以上ご報告申し上げます。

(中村委員長)

ありがとうございました。

ほかにございますか。

(清水委員)

この会には直接関係はないかと思うのですが、先般8月25日から3日間にわたりまして、第55回の全国高等学校PTA連合会の大会が長野市を中心としましてビッグハットを主会場に、県民文化会館等で行われました。

全国から1万を超えるPTAの大会ということで各分科会に分かれ会議が持たれたわけですが、おかげさまで盛会に終了しました。本当に関係していただいた方にも、ついては口幅ったいですけど、お礼を申し上げたいと思っております。

この会に関してのことでもいいますと、たまたま26日ですが、国際21で受付を担当していましたところ、やはり校名を挙げられた一部高校の方も出席されておりまして、ちょっとこちらのほうへ来ていただけますかということで呼ばれまして、「推進委員さん、ぜひとも高校改革プランについては何とか我々の高校がなくなることがないように、ぜひともお願いします」というようなことを告げられました。

その場において何とご返事のしようもなかったのですが、参考としてそちらの高校としてはどういった活動をされているのかというようなことで、話を伺ったということです。署名活動ですとか、おおむね皆さんも想像されているようなことに合わせて、情報として入っていること以上のものは特になかったのですが、そういったことがあったということはきちんとお話ししておきたいと思いました。

(中村委員長)

ありがとうございました。

(塚田委員)

私の所属している母体といえますか、長野県の経営者協会が昨日、このプランをぜひ進めてほしいという姿勢の中で、要望書を宮澤教育委員長に提出したということです。

それまで特に高校の改革プランが、財政的にもメリットがあるならば、その辺をきちっと示していただきたいということも、併せてお願いしたいところでございます。その辺についても、お含みいただければと思います。

よろしく願いいたします。

(中村委員長)

ありがとうございました。

ほかにありませんか。

それでは私のほうから3つほど。皆さんのところに推進委員各位ということで、郵送だと思いますが、長野南高校同窓会会長西澤さんから資料が届いているかと思います。8月25日開催の推進委員会へ提出された資料への疑問ということで、長野市の数字と県教委の数字の差があると。これについては先ほど、事務局から説明をいただきました。

それとあと幾つか疑問点と提案が、資料としてまとめられていますが、これは16日にも長野南高校のほうで会を開かれるそうです。県教委事務局と推進委員の皆さんにも参加要請が出るかと思うのですが、もしご参加いただける方は、意見は求めないということです。傍聴という形になるかと思いますが、参加していただいて、もう少し内容を把握したいというふうに思います。

同窓会の西澤さんから資料が届いています。各委員さんにいっていると私は理解しています。

それからあとは、県のPTA連合会、これは長野県全体の小中学校の保護者で構成している団体です。18万から19万ぐらいの会員数です。

その団体が、先日9月6日に理事会を開きました。理事会というのは市や郡のPTA会長さんの集まりです。郡市Pの連合会の会長さんの集まりです。会長さんと、もう1人、2人ということで理事として副会長さんが入っております。

私は参加したわけではありませんので分かりませんが、30名ほどだと思います。その理事会の席上で、高校改革プランの審議の中で統合対象の具体的高校名が示された。それに対して受験を控えている中学3年生、その保護者に間に不安と戸惑いが広がっている。県Pとしてどう考えるか。それを議論したいということで、議論をしていただきました。

これは中学生、その保護者の不安といいますか、意見を採り上げて議論したということです。議論していただいたことがひとつ、大変評価できることであります。それとその議論の中身をなぜ私が知っているかというと、昨年長野県のPTA連合会の副会長でありましたので、今の会長の赤羽さんに直接お聞きしまして議論の中身を教えていただきました。

参加している副会長さんからレポートをいただきまして、それが今手元にあります。その議論の中身は、まず保護者の方の意見ですね。まず県の教育委員会は、説明責任を果たす意味で子どもたちの不安を解消する説明をしてほしい。

受験校選択の中で、今後生徒募集がない高校を選ばなければならざる得なくなったとき、保護者は何と声掛けができるか、「頑張れ」と言えるかどうか、その辺の不安が示されています。学校がなくなっても校舎が一緒になっていく、要するに廃校になるわけではなくて、新しい高校になっていくのだということで、親の立場で声を掛けていけるのではないかという発言があったということです。

あと県のPTA連合会の立場で、県の教育委員会にいろいろご意見を申し上げるのは、どうなのかという慎重なお話も、保護者の間から出ています。それから理事会の構成メンバーの中には中学の校長先生、小学校の校長先生が含まれておりますが、そこから山古志村の合併による廃校の学校の記念冊子の紹介があったりして、不安を解消できるようなビジョンを子どもたちに持たせていく、乗り越えさせていく、そういう指導をしていきたいということをおっしゃっているようです。

それから最終的には会長さんが9月21日あたりに、県の教育長のほうに要望書をというかたちで、この議論のまとめをしましてそれを手渡したい。これは県議会の始まる前ということですから、もしかしたら陳情というか請願というかたちで提出されるのかもしれませんが。その辺はまだ分かりませんが、まとめをして教育長に手渡したいということです。ですからそのときにまた詳しい議論の内容が分かるというふうに思います。

どんな内容になるかを、赤羽会長さんのメールで教えてもらっているのですが、親の立

場で言えることは、学校がなくなるのではなく校舎が一緒になるということで、3年後にはいい高校になるから安心して受験し、頑張ってもらいたいと子どもに言っていきたいと。

そういうことですから、改革をきちんと決めて、きちんと推進してほしい。その後は統合した高校へ、先生や、それから財政面でのフォロー、それから子どもたちに希望が持てるようなことをぜひ力を入れてやっていっていただきたいという、そういった要望書というかたちになるのではないかとということです。

まだ議論が始まったところですので、要望書を見ないと正確なところは分かりませんが、とにかく県のPTA联合会も関心を持って議論をしていただいていることと、それから改革に前向きというか、やはり子どもたちの不安を解消するためには、きちんとやる場所、それからフォローが大切だということを、主張したいというふうに考えておられるようです。

県Pのほうは以上です。

それと、ひとつ私のところへ8月25日付けで第1通学区高校改革プラン推進委員会委員長中村正行様ということで、定時制・通信制高校の在り方を考える、長野県ネットワークという、呼び掛け人が7名ほど連名で文章が来ております。

法政大学の内田さんと、大沢さん、それから長野大学小林さん、高教組定通部杉山さん、親と子の教育相談所所長土屋さん、ブルースカイ松田さん、県教組教育相談室丸山さんということで、これも推進委員会への要望なのですが、「委員各位の良識見識で教育議論を論議をしてください。県教委案は白紙に戻していただきたい」。

それから財政危機のつけを子どもに押し付けないでほしい。ですので安易な統廃合はしないように求める。それから推進委員会の結論は急ぐことなく、関係者の要望を十分かつじっくり聞く機会を設けてくださいという3項目が要望として出されています。

皆さんのところへいっておりますか。ないですか。8月25日付けで郵送で私のところに来ています。

以上ですが、ほかにございますか。

(丸山委員)

ちょっと、高校の現場の教員の中にいる議論になりますが、その辺のところをちょっと簡単にご説明します。

今、秋に我々は高校教育の教育文化会議というのがありまして、研究団体なのですが、そこでいろいろな分科会で県での教育研究集会に合わせて、秋には各支部が研究集会が行われることになっています。

その支部でそれぞれこのテーマについて、現場の教員が集まっていろいろ議論をするという動きが起こっています。その中では市民の皆さんなどにも呼び掛けるといふ、関係者に呼び掛けるといふようなところも出てきています。

それは場所により違うと思いますから、全部一律ではありませんが推進委員の皆さんや、地域の皆さんの声、呼び掛けがあったらぜひご参加いただいて、我々教員の中でも現場の教員の中でも、地域の皆さんの声を聞きながらこれも十分検討していこうというようなことですので、各地で開かれます。

よろしくお願ひしたいと思います。

(中村委員長)

はい、ありがとうございました。

何か全体をとおして質問等ありますか。

(小山(壽)委員)

先ほどの長野南の件なのですが、9月14日でしたか。

(中村委員長)

9月16日です。

(小山(壽)委員)

16日、金曜日ですね。

私はちょうどその日は、塩尻で夕方まで会議がありますが、参加できればしたいと思います。

(中村委員長)

16日金曜日、6時半からです。

(小山(壽)委員)

それはいただいているのですが、その数字の入った資料というのはいただいていないものですから、できれば数字の入った資料もコピーをしていただければありがたいと思います。

(中村委員長)

この文面には、配られるか分からない委員さんにもと書いてあるのですが。

(塚田委員)

配布されているのは長野市内だけではないですか。

(中村委員長)

17年9月8日付けで、郵送で昨日到着しました、推進委員各位という宛先になっています。

(三澤教育支援主事)

もしよろしければ、その資料を私どもいただけるようでしたら、私どものほうで各委員さんに郵送させていただければと思います。

6 議事

(中村委員長)

私のところに7ページの資料がありますので、これは推進委員各位と書いてありますので配布してよろしいかと思っておりますのでお願いします。

ほかにございますか。

たぶん16日の会で、また詳しいご提案ということで説明があろうかと思っておりますので、生のお声でお聞きしたいと思います。ほかにございますか、よろしいでしょうか。

それでは議事のほうへ移らせていただきたいと思います。

第6回は候補案の詳しい説明をいただきました。それに対して主に多部制・単位制のことで中沢委員から具体的な校名にかかわることで提案をいただいています。普通高校が幾つかある所の中で転換すべきではないかという案、あるいは都市名が挙がっていますが須坂・千曲のあたりに設置していくべきではないかというご意見。それから丸山委員からは、多部制・単位制がよいものという前提で進んでいるけどどうまくいくのか。その辺ももっと議論しなければいけないということが言われております。

それからもうひとつの議論が、平成19年に実施していく、その実施の可能性というのは十分あるのか、実現可能なのかどうかということが議論になりました。もうひとつ大きなものは地域の方がどう考えているか、できる限り聞いていただいている清水委員のご提案。

今日も幾つかご報告していただきましたが、こういうやり方だけではなくもっときちんと把握していくべきじゃないかということです。丸山委員からは部会をつくって、その中で把握していくというような意見もありましたが、今のところはまず反対、白紙撤回というところから始まっておりますので、地域のほうも先ほどの中野市の状況を青木委員から報告いただきましたように、勉強、学習をしてその結果を市民会議で議論してということです、これから本格的なご提案というかたちで出てくると思います。

いかにその声をこの推進委員会の議論に対応していくのか、この場でもう少し議論したらいいのではないかとということも、前回出していただきました。

この辺、多部制・単位制、それから地域の意見等を議論に反映していくのか、この辺が今日の論点かなと思います。もちろん魅力づくりその他で、総合学科高校等も含めて考えるところはたくさんあるかと思いますが、議論の進め方としてはどうでしょうか。取っ掛かりとしては多部制・単位制のあたり、それから地域の方がこの意見をどう収集していくかというところを、ご意見いただきたいと思います。

何かこの進め方に関して、ご意見がありましたらお願いいたします。

今日も8から10件くらいの情報提供があったわけですが、こういうやり方をあまり回数はないのですが、しばらく継続してやっていきたいと思っております。別の地区の推進委員会では視察をしているところもあります。いろいろな情報収集の仕方があろうかと思いますが、各委員さんに情報提供をいただきながら、あるいは地域の要請である会議に出てきた方がいらっしゃれば、そういう報告もしていただくということで、進めていきたいと思っております。

それと前回最後のほうで、私があまりはっきりとは申し上げませんでした。こちらが呼ばれていくのは報告というかたちでよろしいのですが、この推進委員会の場でご提案いただくというのも可能ではないかということをお願いしたのですが、その辺はいかがですか。

例えば単に「存続してほしい」、あるいは「しっかり審議してほしい」というご意見ですと、これはもうどここのところも共通ということになりますので、あまりその辺はここで申し上げていただいても議論の中には、なかなか反映しにくいかなと思います。

ですので提案ですね。「こうしたほうがいいのではないか」ということは、大いに参考になろうかと思います。ちゃんと理由を明示した提案であれば、ぜひご意見を伺っていきたいと思います。我々が気がつかないこと、あるいは報告の中で挙がってこないようなことが、ここで収集できるのではないかと思いますので、地域あるいは団体の意見を言うていただく分には構わないかなと思います。

(丸山委員)

今、委員長さんがおっしゃったことは地域の声を大いに聞くかという問題についての提案だと思いますが、ちょっと気になることは、その方法はそういうふうに勝手にここへ来ていただいて話をしていただいてもいいんですが、その中で提案的なものを含めてやっていただくのはいいのですが、ただあくまでも県から出たのはたたき台なんですね。

そうすると現段階では、名前が出た学校、あるいは出た地域、そこでは一生懸命議論をして、ただ反対だけじゃなくて、じゃあどうするんだ、どういう提案があるかということについての議論は始まっていくという話もあるわけです。

しかし、まったく名前が挙がっていない地域もあるわけです。そのようなところは、動きはないわけですよ。ただそうするとたたき台を基にして、その修正しかあり得なくなります。

そのところ私もちょっと具体的な提案はありませんが、そういうところをどうするかという問題が大きいと思います。結局そうするとたたき台を少し修正するぐらいしかできないと思います。もっとこんな大きなことを考えたのに、考えられるんじゃないかという全体的なことを考える、そういうことができないのはひとつ、これがちょっと心配です。

だからどういうふうにやるか、ちょっと具体的な提案はあまりないのですが、ひとつは反対でもいいから、確かに反対という気持ちの中ではその学校がなくなれば困るという、非常に純粋なというか、そういうものからスタートをしているのかもしれないけど、それを間接的に我々は聞いているわけですよ。あるいは文書で、一生懸命送ってきている学校もあるわけですよ。

じゃあ文書で一生懸命送ってきている学校は、そういう思いがあるけれども、送ってこない学校はそうじゃないのかと、違うと思うんです。慎重にいろいろ対応しているところもあると思います。そういう温度差があるので、やっぱり反対の声ももし聞くとしたら平等に聞きながら対処していかないと、何か不平等になってしまうのではないかなという気がします。

だからそこでやっぱりもし時間がかかるかもしれないが、名前が挙がった地域についてご意見や感想をぜひ述べてもらいたいというのがひとつと、それから挙がっていない地域も含めた、その地域の声というのをどのように吸収していくものかというのは非常に難しいと思います。

率直に申し上げますと、ちょっと問題があるかもしれませんが、例えば2区で高等学校の中で見るとそうですが、中野地区は一生懸命いろいろやっていたいっているのですが、須

坂はほとんど動きがないです。須坂は1校も候補に挙がっていませんから。それでいいのか、須坂も含めた議論をしていかなければいけないのではないかと思います。

そういうことも含めて、やはり学区ごとで縛るのではなく、旧12通学区ごとに、部会というようにきちんと組織はつくらなくてもいいが、それは時間はかかるし、委員を選んだりしていると時間がかかるので、旧通学区ごとに、あるいはもうちょっと小さい地域でもいいですが、地域の意見を吸収していくかということを考えなければいけないと思います。あまり具体的な提案があってはいけないんですよ、心配ばかりあるので。そんなようなことをちょっと考えるのですが、その辺ご意見をいただきたいと思います。

(中村委員長)

そうですね、確かに反対意見は名前の挙がった高校からしか出てこないですよ。ですがこの推進委員会の役割として、第1の地区で考えなければいけないのです。すべての高校が対象になっているわけです。

具体的に申し上げますと前回第6回には中沢委員のほうから須坂市、千曲市という名前が挙がってきているわけですね。そうすると須坂が、今後本当に真剣に考えなければいけません。それは我々も考えるでしょうし、須坂の地区でも考えていただきたい、ぜひ考えていかなければいけないと思います。

ですからやはり今ご提案があるところを出していつていただきたいと思っているのですが、なかなか機会を均等に設けて皆さん方の意見を収集するというのは、なかなか難しいと思います。

ですからやはりご提案があるところの意見を優先して聞いていくというのを、まずしないといけないのではないかなと思います。足りないところはやはり推進委員会の役割として議論をしていかなければいけない。我々が議論しなければいけないということです。

今できることはやはり各委員さんの持っておられる情報を提供していただきながら、いろいろな状況を把握していくということと、ご提案をお聞きすることではないでしょうか。

ほかにはありますか。

(小山(壽)委員)

委員長さんのお話で結構だと思います。

ただ、例えば先ほど青木委員さんが中野での動きをお話ししましたし、それから小山(元)委員さんが飯山の動きを話してくださいましたが、行政がかかわって会を進めていってただけということは大変ありがたいことなのですが、反面とかく飯山市の場合だと、各部署のトップの方達が集まるが、その方たちはどのような形で意見集約が行われているのかという部分についていうと、非常に難しい問題もあると思います。

飯山地区には実は4つ高校がありますが、4つの高校すべて9月に入って臨時のPTA総会なり、PTAの役員会を開催しています。中学校でも、連合PTAですから小学校も入りますから、PTAの役員たちも学習会を開いておりまして、私も一度参加しています。

また今月2回ほど夜学習会があるというような話も聞いています。これはなぜ急にそういう動きが出てきているのかというと、「飯水岳北の高校の将来を考える会」が9月の下旬に考えをまとめるというっているわけです。

急きょそこに向けて、組織で意見集約をしなければいけないということで、あわてて動きだしてきている。特に実は一昨日ですか、飯山一中というところがありまして、その母親委員会がこの問題についてぜひ意見を推進委員に聞いてほしいということで、私だけではなく4つの高校の校長が全員で参加して、母親委員会の議論を聞いたわけですが、やはり高等学校というのは、どういうふうに運営されていてどうであるのかというのを、あまりご存じでないという印象がありました。

ただ話をしていくと、ほとんどの方は皆昔の高等学校で学習した経験がありますので、「そうか、そうか。そういうことがありますね」という感じなんです。だからやっぱり地域ごとにもっと知っていただく。ただ連合PTA飯山では、PTAがアンケートをやる予定になっておりますが、アンケートですと数はたくさん集められるし意見集約はできるのですが、ただどういう状況の中でそのアンケートに答えているかという問題があって、なかなかそのものが難しい。

そうすると、やっぱり地域ごとにもう少し推進委員が中心になって勉強会をやっていかなければいけないのかなという感じをしています。行政の方も、できればそういうものを働き掛けて、聞いていただけるとありがたいと感じます。

(中村委員長)

ご意見ございますでしょうか。

(清水委員)

地域の方々からのご意見を聞いていただきたいということを前回申し上げましたし、それと同時に今まで県教委のほうから説明に行っておられるのですかとご質問させていただいた覚えがあります。

そのときに現にやっているというご回答で、その内容についてできれば私たち推進委員にお示しいただきたいなということを申し上げたと思うのですが、その点については今後これについて資料をいただくなり、ご説明をいただくということは可能なんでしょうか。

(中村委員長)

事務局、お願いします。

(三澤教育支援主事)

今、用意してございませんが、可能でございますので考えさせていただきたいと思えます。

(中村委員長)

幾つかご紹介いただけてますね。

(三澤教育支援主事)

そうです。

(中村委員長)

それをもっと詳しく、これからも継続的にということによろしいでしょうか。

(清水委員)

随時お願いしたいと思います。

(中村委員長)

そうですね。

第一から第四までありますが、他の推進委員会の状況もぜひ伺いたいと思います。

(吉江高校教育課長)

来週以降も、若干とも指名をいただけたような場所がございますので、具体的には先ほど来お話が出ております長野南高校もございますし、ほかもございますが、それがこちらのほうの第一推進委員会の議論の対象となっている地域ではないかもしれませんが、その辺も含めまして、何らかのかたちで、要約のようなかたちになってしまうかと思いますが、お出しするようなかたちを取らせていただきたいと思います。

よろしくお願いします。

(中村委員長)

意見収集に関してはどうでしょうか。できる限りのことをしないといけないということで。

ほかに、よろしいですか。

それでは、取っ掛かりが難しいので毎回苦労するのですが、中沢委員が前回示していただきました多部制・単位制のことで、皆さんのご意見を伺いながらこれから進めていきたいと思います。よろしいでしょうか。

中沢委員からは、何回かにわたって第一案、普通高校が幾つかある中で転換したほうがいいのではないかと。第二案、もう少し須坂、千曲等も考えたいかがかというようなご提案です。それから丸山委員からは多部制・単位制がよいという前提だけど、その辺も、うまくいくのかということも議論をすべきだという意見をいただいております。

それから第3回か4回のところに、交通の便の話ですね。魅力づくりと絡めて配置に関して大規模化することがいいのか、集約することがいいのか、その辺の議論もあったかと思えます。この辺も含めて、少し候補案、これも候補案に基づくことですが、その辺のご意見を少し伺っていこうかと思えます。

(中沢委員)

本来、この委員として全体的な立場でいろいろ申し上げることは鉄則でございますが、たまたま多部制・単位制が坂城高校ということで、地元にも関連してきておりますので、ちょっとお時間をいただいてご説明し、新しい提案をさせていただきたいと考えております。

この9月13日から坂城町の町議会においても、13人の皆さんが一般質問をされるわけ

でございますが、その中で4名が高校改革に絞って坂城高校について提案、いろいろ私にお聞きするということになっております。そういう観点からいうと、ここでもう少しわたしの考えを、委員さんに具体的にご説明したあと、議会にもそういう線で説明してまいりたいかなという思いが前提でございます。

また高校の管理職等にお話ししても、なかなか県の示したことということで、それなりの具体的な意見はいただきません。また現場の先生とお話する中でも、いろいろと現状ということに少し思いが強過ぎて、新しい意見がなかなか出ないという中で、私なりの提案をさせていただきたいと思うわけです。

多部制・単位制の高校ということになりますと、前回も申し上げましたように、群馬の太田フレックス高校、あるいは前橋清陵高校を見る中でも、こういうことがこれからのニーズに合わせた高校のひとつとしては必要だなと、こんな思いもしておりますので、この要件が各4通学区において、それをネットワークしていくということはそれなりの意味があるなと、そんなふうにも思っているわけでございます。

しかしそうした中で、坂城高校の全日制を転換していくということへの対応については疑義もあるし、もっといいところがあるんじゃないかということで先般もいろいろご提案させていただいたところでもございます。

より具体的なこととして、県の案では中野市の1校と、長野市の北部の夜間定時制についてはそのまま維持するということになっておりますので、問題は長野吉田、長商、篠高、上田千曲、上田高校の定時制と長野西の通信制ということになってくるのかなと思います。

そこで県のほうで地理的なものとして、その上に上田地域と、この長野地域との交流もということで、交通便も挙げられているわけでございます。そこで私なりに調べてみますと、しなの鉄道、信越線の沿線ということと、普通高校が置かれている駅との間隔を調べたわけでございます。

小諸 田中間が9.3キロ、これは東部高校がございまして。田中 - 上田が8.7キロ、上田坂城が10.4キロ、坂城 屋代が9.5キロ、屋代 篠ノ井が5.2キロ、篠ノ井 長野が9.3キロ、次に北部、北長野が3.9キロメートル。

こういうふうに見てみますと、ひとつの自然の歴史の中で等間隔で普通高校が置かれているなという思いを強めているところでもございます。これが今までの適正の配置ではないかなと思っております。

そしてまたそういった上田あるいは長野に絞って、中間的なお話をしますと48キロ、上田 長野がございまして、もう24キロというと、これは屋代地域になるなと、こんなふうに思うところもございます。

地域の子どもは地域で育てて、地域の学校へ上げて、そしてまた地域に帰るというようなことを考える教育理念の原点に立つと、この等間隔というものは維持しなければいけないと、普通高校においてはそう思っているところでもございます。

また屋代地域というところは、河東線がございまして、それは松代まで8.5キロ、須坂まで24.4キロ、いずれも通学範囲にございます。さらに信州新町、中条の西山、そしてまた筑北からも通勤可能でございますし、大都市の長野市からもより利便性が高いということでございますので、屋代南高校を考えてほしいなと思います。

屋代地区は屋代高校もございまして。屋代南もございまして。いろいろこれから少子化に向

けては、そういう対応のひとつに子どもが行けることも将来に向けては大事なかと、そんな思いもするわけでございます。

そしてまた県で指摘しております、いろいろな工業的な面での生徒に対するお手伝いができるという提案があったわけですが、坂城の工業出荷額は1,600億でございますが、千曲市は2,060億ぐらいで坂城よりもより工業出荷額の多い場所でございます。

合わせまして、この屋代地域は千曲川農協に代表されるように集約的な農業地帯の最たるものであるとともに、ここには商工会議所や青年会議所等、科野青年会議所等があって、支援体制もより万全だなと思います。

歴史的な面から見ましても、森將軍塚とか歴史館、あるいは姨捨の棚田とか、若者の多様なニーズに応えられるべき地域であるなと思うところでございます。そしてまた現在の坂城高校の入学者の現状ということを見ますと、坂城高校の場合には坂城中学と戸倉上山田、これは千曲市に今度合併したところでございますが、そこが42.2%でございますし、その他の4区の通学者が25.5%でございます。

そして大事なことは第6区の上田地域から22.4%ということで、上田地域との素晴らしいつながりを持っておりますし、これがまた坂城・上田の中における工業の連携を高めるところでもあるわけでございます。

さらにこの細部にわたってみますと、戸倉上山田中学、これは今千曲市でございますが、その子どもたちが通学する現在の在校生は坂城高校が90名、屋代南が46名、屋代高校が84名、そして坂城中学は坂城高校は110名、屋代南が25名、屋代高校が10名ということで、坂城高校は戸倉上山田中学によっても支えられているという現状があるのかなと思っています。

そう考えますと、駅から5分という本当に通学的にも近距離にある屋代南ということは、当初いろいろな県の素材がひとつの提案だということになれば、私の提案と合わせてみんな考えてほしいなと、このように思っています。

しからは、この坂城高校をどう考えるかということになろうかと思いますが、このプランの中で普通高校のキャリア教育というものを重点に考えているわけでございます。他の学科、高校との連携と合わせまして、坂城ならではのひとつとしてテクノセンター、あるいは能力開発学院とか、あるいは森林産業のPIプラザ、そしてまた信州大、長野大学や中国復旦大学のこういった産学官、そういったところを生かしながらのキャリア教育によって単位が習得できるような、そういった面での力尽くしをお願いしたいと思います。

合わせて匠（たくみ）の町の間人国宝宮入平刀匠、そういったようなことも含めましてこの改革プランに沿った対応を考えていただけたらどうかと思います。

そしてさらにまたいろいろと進学に対応型の単位高校、あるいは総合科学技術高校というふうに挙げられている中で、どちらかという toward 心を育成するような高校、屋代と上田の中にあってオンリーワンを目指すような、そういう普通高校にさせていただきたいと思っています。

まず屋代南高校も、ひとつの候補であるということで、より具体的に提案させていただきまして、皆様のご検討をお願いしたいと思います。

以上でございます。

（中村委員長）

ありがとうございました。

ほかの委員さんからご意見をいただきたいと思うんですが、どなたか。

（森野副委員長）

ただいまの提案ですが、私も大賛成であります。と言いますのは、やはり学ぶ者の心と
いいですか、あるいは一度挫折したと。あるいは学校へ行きたくても行けなかったと。そ
してまた目覚めてくるという人も多いわけでございまして、そういった人たちの利便性と
いいですか、そういうものを大事にしていきたいなと思います。

そうするとそこに学校がなければ学べないわけですし、足元にあるという。やはりネッ
トワークの拠点としていただければありがたいかなと、そんなふうに思います。

特に前からお話がありました、北信の最南端といいますが、位置的には無理があるな
と思うわけです。ですから今おっしゃったように、篠ノ井か屋代、私はここは大賛成であり
ます。そんな意味で、地域の結び付きというものが濃くなっていくんじゃないかなと。

そういう意味で、ご意見に賛成いたします。

（中村委員長）

ほかにご意見はありますか。

（丸山委員）

今、中沢さんの提案について、前からお話ししているように私も坂城を多部制・単位制
に転換するということは大きな問題があると思っています。長野南をなくすことと絡めて、
くしくも長野市南部地区の普通校の問題として非常に大きな問題があると思います。

多部制・単位制の問題でいうと、私も前に言いましたが、多部制・単位制を無理してつ
くる必要があるのかということですね。定時制の充実というほうがもっと有効ではないの
か、つまり今の対案で出ているものにしても、北信濃からは通えないのです。通っても非
常に困難です。もともと通うのが困難な子どもたちが行く場合が多いわけです。

そうなるどころかへくくれという話になって、そうするともとは北のほうに近いとこ
ろというか、北のほうにという話になるわけです。この前話が出ているように、長野市と
か須坂市とか、幾つか学校があるところの話になって、どこかの学校をつぶしてこうい
うかたちに変えなさいという話になるわけです。

それが本当にいいのか。多部制・単位制って、確かにいいように聞こえますが、定時制
をきちんと充実させると、その機能は十分発揮するんです。だから多部制・単位制をわざ
わざ独立でつくる必要はないということですね。

もっと言うと、私は別に新しい校舎をどこかへつくっていただければいいんですよ。つぶして
までやる必要があるのかという問題ですね。つまり統廃合と絡んでいるんですよ。統廃合
の手段なんですよ。多部制・単位制がいいなんて言っていますが。

その中で考えたのは、あんまり正確じゃないでしょうけど、ちょっと分かりやすくする
ために。単位制にするとか、やりやすく時間帯をいろいろ変えていくというふうにするこ
とについてのメリットはありますが、それは夜間定時制で対応していけないのかという問
題なんですね。少し早めの時間を加えるとかいうのを工夫できないのかという。

それで問題は、昼間ですね。特に午前中ですね。午前中だけ行くということもできるよとか、午後行くことができるよというものだそうですね。そういう子たちが、行くなら午前中だけ行ってあとは休みとか、午後だけ行って休みとか、それを午前、午後だの、夜間、取れば3年で卒業できるとか、そういうことにメリットがありますが、それは定時制の部分で完全じゃなくても、そういう工夫ができるんじゃないかと思います。

だから1校つぶす、どこかを転換するということを前提に議論すべきなのかというのがどうしても私は大きな疑問なんです。そうすると結局そういうふうを考えていくと、どこかをつぶさなければならなくて、どこかを多部制・単位制に転換しなければ駄目なんですよ。

だから私も、今の定時制を全部残すかどうかは分かりませんが、一定のバランスというのがあるかもしれませんが、前から言っているように定時制の場合、ほんとに近い地元にあるということと、それから少人数というのはすごく大事なんです。多部制・単位制をつくると、人数が多くなっちゃうんです。

そうすると、そこからはみ出す子たちが出てくる。そういう人たちは定時制しか行くところがないんです。そういう点は、基本的な議論をきちんとしないと。だから私は議論を深めるためにはっきり言いますが、多部制・単位制は無理してつくる必要はない。定時制をもっと、多部制・単位制の良さを生かすような改革をしていくべきだというふうに思います。

(小山(壽)委員)

多部制・単位制については、今の丸山委員さんの話だと、今まで議論していたところへ後戻りしているということで、議論が進んでいけないと思います。少人数の良さというのもある。従って定時制が全部つぶれてしまうわけではない。中野にも、新しい学校の定時制が設置される。長野市内にも定時制が置かれている。

そのようなことがあるので、そういうかたちで議論を後戻りさせるのではなくて、今の中沢委員さんから出された案というのは、まったくここまで校名を出さずにやってきましたので、校名が出るということは当然その学校でまた何らかの運動が起こっていくということになりますので、現場の責任者とすればちょっとこれからまた新規に考えなければいけない学校がひとつ増えたということになるわけですが、しかし提案をされたわけですので、この問題を真摯(しんし)に考えていく必要があるということだと思います。

最初からこの議論の中で、やはり学校数を減らすという前提はあったわけですから、同時に魅力づくりのことを考えていくということですので、そこを前提を思い出していただいて、議論を先に進めなければいけないのではないかなと思います。

(中村委員長)

小山(壽)委員から前回、21校を切るのではないかなというような、数字の上からそういう思いもあるというようなご発言もありました。それから第3通学区の議論ですが、県教委の候補案とは異なる3校削減という、どこかに学校を決めて答申していくことを9月9日、昨日の委員会で決めたようです。

さらに再編案を幾つか提示せよと。ただし県教委の現在の候補案は撤回せよというのが、

どこの団体でしょうか、要望があったと聞いております。幾つか並列で提案せよということで、それは非常に大切なことではないかなと思います。

今挙がっている県教委の候補案の良しあしだけではなくて、具体的に中沢委員からご提案があったようなかたちというのが、非常にいろいろ出てくる。もちろん理由は中沢委員が説明されたように、きちんとしていなければいけないことだと思います。

そういう候補案が出てくることが、非常によいことであると思います。魅力づくりの観点からも、選択肢があるということで、いいのではないかと思います。

今、高校を減らしていくことが前提といいますが、議論しながら決まっていくということだと私は思いますので、多部制・単位制をやはりどこかに配置するという議論を優先したいと思います。

何かご意見はありますでしょうか。

（小山（元）委員）

今の多部制・単位制についてのことですが、最初の出ましたときにやはり北信地区といいますが、第1通学区の一番東のほうに持っていくことは無理があるのではないかと申し上げたことがありましたが、利便性がしなの鉄道であるというひとつの方向で出されたわけです。

今、中沢委員さんからもお話がありましたように、やはりいろいろの立場で考えていく上で、案で示されたのは前回いただいた資料の10ページのところに書かれていますが、それが一番よいのか考えあらためてまた読ませてもらい、坂城の位置へ持っていったというのは10ページの上の統括のところの3つ目の「・」ですが、「坂城高校の位置は、第1通学区から第2通学区にわたり通学圏域が広域であることから、東北信の定時制・通信制の中心的な高校としていくことができる」という、これは将来的な展望で示されています。

しかし今回の場合には、第2通学区のところまで我々が考えなくても、第1通学区の立場でやはり第1通学区の生徒諸君が学ぶにはどうであるか、そこをやっぱり視点を当てて考えていってもいいじゃないか、そういう立場で中沢委員さんの示されたのも、ひとつの案として大事に考えていきたい、そう思います。

（中沢委員）

私が千曲市の屋代南高校が近い、ここも考えてくれというにはそれなりの悩みもあったわけでございます。こういうものは都市部にあって、長野市、そして須坂市、千曲市という規模の大きな市が近接する中に、県の具体的に高校を挙げて提案しているならば、またその対案も高校を指定せざるを得ないな、こんな思いがあります。

そして千曲市の屋代高校、屋代南、そして篠ノ井には定時制があり、そして更級農業もある。そういう中から、どうかなということの中で、じゃあ本当に将来に向けてより良き高校、その学校にとっても素晴らしい飛躍の道にもつながる可能性としては、屋代南さんあたりがということで、あえて提案した苦渋の提案でございますので、その点はご理解いただきたいと思います。

(塚田委員)

まず多部制・単位制については、先ほどから何度も委員長も言われたように、もう設置をしていくのだという前提があり、話を進めていくのではないかと私は思います。

それから今、第1通学区だけで考えていけばいいのではないかというお話がありました。が、どうしても第2、第4と、長野も接しているわけなので、それはどうしてもその辺は第2、第4に近いところということは、やはりその他の通学区のことについても、どうしても頭に入れて、考えざるを得ないのではないかなと思います。

そういう意味で例えば小さな地域だけで考えていけばいい、第1通学区も各地域に区切って考えればいいということになって、全体を考えていかなければいけない。それから6の隣接地域については他の通学区との関係も、ある程度頭に入れて議論しなければいけないのではないかなという気がします。

(宮本委員)

今、屋代南ということがきましたが、いろいろまた県教委の再編案についての対案ということでの提案であると思いますのでその意味で、私も賛成です。

屋代南高を転換することに賛成というわけではなくて、いろいろな地域を候補地に挙げながら検討していった、最終的にまた坂城になるかもしれませんし、いろいろなことによって千曲市でも坂城ももし多部制・単位制、あるいはほかの地域にそういう学校ができたときにも、やはり周りを支える地域の盛り上がりがないと成功しないと思いますので、これによって例えば千曲市だとか、須坂市だとか、地元の高校を考える、今までは少し盛り上がり欠けたところもあったのですが、考えるきっかけともないますので、いろいろと多角的に考えながら、地域を絞っていくかということに賛成です。

(丸山委員)

さっき私が言ったことについては、意見はそのとおりなのですが、今の中沢さんの提案について述べます。

私は1校も減らすなどと言っているわけではありません。この1通学区に1校も減らすなどという立場ではありません。ただ、県教委が出した案の数だけ減らすことが本当にいいのかというのがあるので、近いいずれの機会に資料を出したいんですが、減らすことは大きな問題になると思いますので、あのとおり減らすことは問題が大きいと思います。そういう取り方が前提です。

だから1校1校やっていくのは分かりますが、全部残せと言っているわけではないので、多部制・単位制についてはさっき言ったように私は考えるということです。

もうひとつは定時制をどういうふうに分担するかということと、それからこんなの無理だとおっしゃるかもしれませんが、独立校舎と言っている。確かに県教委から出しているということもあるんですが、やっぱり慎重に検討しなければいけない。独立校舎じゃなければ併設はできないのかという問題もある、それも検討すべきだと思いますね。

つまり全日制が併設されているところの定時制をそういうような性質を持ったものに変えるということとはできないのか。そんなことを思っていますので、決して議論を後ろ向きに、前に戻すつもりはまったくありません。

そういうことは、当然関連して議論されていくわけだから。だからそのところだけは、議論してほしいというのを、私は今でも思っています。今の提案、屋代南という提案については、私は賛成できません。もしつくとしたらどこかという場合、一番大きな問題が解決されていません。

ほんとに多部制・単位制がいいのだったら、それこそ須坂以北、北信濃からは行けないでしょう。もっと第1通学区の真ん中につくるべきではないでしょうか。確かに第2通学区が野沢南だから、これもかなり向こう（東）です。確かに電卓たたいてみたらその辺もまたいいという話になるかもしれませんが。北信濃のものにとっては、定時制に行くしかないですね。ほんとに多部制・単位制がいいとしたらですよ。ニーズがあるとしたら、それはもっと第1通学区だけで考えるとしたら、もう少し、それこそ前に中沢さんが言ったような場所、長野とか須坂とかあり得るのではないのでしょうか。

やはり、それが一番の問題は地域が偏ってしまうという問題が屋代南では全然解決されていません。

（小山（壽）委員）

いいですか。

ちょっと頭を整理するために休憩にしていきたいと思いますのですが、ちなみの昨年度の旧第1通学区、つまり飯山地区ですが、飯山地区すべての中学生の中で定時制進学者は1人だけです。これは中野実業に進学しています。

（中村委員長）

ご指摘のとおりちょうど時間が中ごろですので休憩にしたいと思います。お願いします。

【休憩後再開】

（中村委員長）

お二人の委員さんが所用で退席されましたので、ご承知おきください。

時間ですので再開したいと思います。

引き続き、ご意見を伺っていききたいと思います。

ただいま具体的な案と、それからシステム自体に関する疑問点がまだあるということで意見をいただいています、ほかの委員さんから、何かご発言ございますでしょうか。

今、中沢委員からご提案があり、具体的な高校名が挙がりましたが、それに関して候補案の説明のところにあるような資料の、数字的なところは事務局ほうでご準備いただけるということですので、次回以降提出をお願いしたいと思います。

中学生の動向等に関する資料をお願いします。

何かご意見、ご提案はございますでしょうか。

(宮本委員)

今、中沢委員のほうから具体的な名前が挙がったのですが、ほかの委員からも幾つか高校の名前も挙がっていますが、県の事務局のほうではどこまでの資料、具体的に「どことどこと、どこ」にするのか、その辺のところを皆さんにと思うのですが、今挙がっているのが須坂もありましたよね。

須坂、篠ノ井、あと屋代高校、屋代南、幾つか挙がっていましたが、その辺のところを範囲とか、どんな論議をしたのかと思うのですがどうでしょう。

(中村委員長)

今、具体的には屋代南、それに基づく再編案ということで、理由もしっかりいただいていますので、屋代南に関して何か数字的なものがあれば比較できるかと思います。

公開の場で、なかなか具体名を挙げるのは勇気がいるよというご指摘をある方からいただいたのですが、そのとおりでございますが、これはやはりいろいろな案を考えていく上でぜひ必要なことかと思います。

もちろん候補案でございますので、ここで挙がってくることも皆すべて案ですので、深く議論するには必要と思います。

(宮本委員)

いいですか。

もう一度確認させていただきたいのですが、一応屋代南を候補案として検討するということでいいんでしょうか。ほかのところは考えないということでしょうか。

(中村委員長)

今、ほかの委員さんは他校は考えないというか、今具体的にご提案をいただいたのが、屋代南ということです。

(宮本委員)

発言の中に幾つかありましたよね。森野委員からも、篠ノ井の名前も出ましたし、須坂という名前も出ましたが、そこを確認させていただきたいのですが。

(中村委員長)

それも、そうですね。

(小山(壽)委員)

先ほどもちょっと申し上げたのですが、中沢委員さんはある程度の具体的な根拠を示しながら屋代南ということをご提案されたわけで、学校の立場からいうと具体的な根拠もなく校名を出されることが大変学校にとっては迷惑なことです。

ただ現段階で屋代南という名前が出されたことをプラスに考えるとするならば、今まで校名を挙がっていなかった学校は、うちとは関係ないと思っていたが、うちも候補に挙がってくるかもしれない、自分の学校の問題として、この高校改革全体を考える機運が出て

くるということなのかなと思っています。

やはり校名を出す場合には、きちんと根拠を挙げて校名を出していただきたい、そんなふうにしています。

（中村委員長）

きちんとしたご提案を中沢さんからいただいたと思いますので、屋代南に関して比較検討の上でまた議論をしないといけないと思います。数字の面で候補案の説明にあったような中学生の動向とか、その辺を事務局にご提示いただきたいと考えました。屋代南に関してということです。

（塚田委員）

ちょっといいですか。

今、宮本先生からも須坂とか屋代とかいう名前が挙がったと言っていました。たぶんそれは地域ということで名前が挙げられたんじゃないかと私は理解しているんですが、具体的に校名を挙げたということでは、屋代南という名前が挙がったのかなというふうな理解を私はさせていただいています。

それで今、この屋代南の学校案内を見させていただくと、中にも被服科というのがありますので、この辺が今どんな状況なのか、そういう特殊と言っては何ですが、被服科を抱える中で、その転換というのが具体的に可能なかどうか、その辺を含めてまた次回教えていただきたいと思います。

（小山（元）委員）

先ほどの、地域全体のことを考えるという、東北信一緒に、第1、第2というのは可能であるとも言えるのですが、私も前は第1通学区を中心に考えるべきじゃないかというのが私達の立場ですから、だから坂城という名前が最初に出ましたが、端のほうへ持っていくじゃなくて、第1通学区の中心のところへ、今出されました、屋代南ですか。それは私は別にそこでいいと申し上げたわけではございませんで、第1通学区のできるだけ便利な中心地にできるだけ広範囲からの通えるところだと申し上げたいです。

以上です。

（中村委員長）

地域ということでご提案いただいたかと思います。

今日は多部制・単位制の配置ということでご意見を伺っています。具体的な名前が挙がった。これを繰り返していきますと、かなり時間が必要になってくることだと思うのですが、これはぜひやらなければいけないと思います。

理由をきちんとつけてご提案いただく、それがやはり途切れたところで候補案が幾つか挙がってきたと判断したいと思います。今後総合学科の配置等も同じようにやっていきたいと思いますがいかがでしょうか。

(丸山委員)

前提はさっき言ったとおりなのです。もし設置するとしたらという条件ですけど。今、小山(元)さんがおっしゃったようなことを、私もそういうふうに考えますね。

というのは中沢さんがおっしゃったことについては分かるのですが、第2通学区で野沢南になるという前提というのは成り立つのかということと、何か聞くと第2通学区の野沢南というのはちょっと端っこ過ぎないかというような話もあって、そういうような話も出ているわけです。

そうするとその動きもかなり違うし、野沢南ということを経験としたら、しなの鉄道沿いでどこかという話になると、そういうことも考えられるのかなと思いますが、やっぱり北信全体というふうになると、須坂、中野、飯山というところの生徒もいるわけで、確かにさっき飯山1人だけだとおっしゃったけど、須坂は河東線があるところがあるけど、河東線なんかは非常に不便だし、そういうことになる、やっぱりつくるとしたらもう少し真ん中のほうへというふうにも思います。

だからその辺の検討と、それからそのときには今、定時制があるので、そののところに併設的なところでやるという、独立校舎じゃないということではできないのかどうか。独立校舎という意味は、どういうことなのかということを含めて、やっぱり検討していく必要があるなと思います。

(坂口委員)

私も具体的な名前が出ていますので、それがどうこうというのは非常に難しい部分があると思うので置いておいて、前回いただいたこの資料で12ページに、「第1・第2通学区の定時制・通信制課程の再編整備候補案の概要」という図がございますね。

これを見ると北信のほうはこのまま矢印、須坂が募集停止になって19年に廃止予定と。これを見ると、坂城へ位置付けたという再編後のイメージという点では理解はできると。だから坂城がいいということではないわけですが、この第1ブロックで南すぎないと、確かにそれもあるみたいですが、全体的に見て坂城へ位置付けていくという意図は、ある程度理解できるかと思います。

今、独立校舎も、多部制・単位制高校は14年度の多部制・単位制高等学校検討委員会において、独立校舎をという、これが明記というか検討されているわけですね。なぜ独立校舎なのかというそこを、もう少し理解できないと、ちょっと本当の良さといえますか、特色として独立校舎ということ十分に理解できないということですので、若干そのあたり丸山委員さんから、独立校舎と併設、その違いといえますかメリット、デメリットといえますか、そこをちょっと教えていただければ、もうちょっと理解できるかもしれません。

どこがいいかということは、非常に難しいわけで、何をもちょう交通の利便性かという、いろいろな考え方があるわけでありましたが、一応この候補案の概要を見せいただければ、一応位置づかなという気はいたします。ただ坂城高校がベストかどうかは別として、この再編概要でおおよそ理解はしているつもりではありますが、ちょっと独立校舎のことをもう少し説明していただければと思います。

(中村委員長)

これは事務局のほうで、検討委員会の議論の経過を説明いただきたいと思います。

(柳澤教育主幹)

今の多部制・単位制高校、独立校舎というお話でございますけれども、前の推進委員会に、多部制・単位制高校の現在考えている県としてのイメージということで、資料もお示ししてございますが、その中にありますように午前部・午後部・夜間部というかたちで、3つの部を持った多部制をという中身で、生涯学習的な部分も加え、またこの通信制もございますので、土日も含めまして開校ということになりますので、全日制との併置というようなことになると、いろいろな施設、設備の活用の面におきましても、不具合が生ずるというようなことがございまして、独立校舎を持った多部制・単位制ということが、教育効果を上げる面でも大変有効に働くであろうと考えております。

また現在松本筑摩高校にもございますが、全日制の生徒とのリズムの違いといいますが、そういったこともございますので、多部制・単位制高等を有効に活用していくためには、やはり独立校舎を持ったかたちでと、こういうような意味合いもあって検討委員会のほうでも提案されているということだと考えております。

(中村委員長)

ありがとうございます。

(塚田委員)

今のお話を聞くと、先ほど質問させていただいた、屋代南の被服科は全日制ですね。そうすると一緒というのは難しいかという感じはしますが。

(中村委員長)

事務局お願いします。

(吉江高校教育課長)

今、塚田委員さんからお話ちょうだいいたしました関係で、あまり個々の学校の議論を申し上げるのはどうかと思いますが、取りあえずご質問をちょうだいしましたので、申し上げますと、私どものご提案も、実は仮に単科の普通科だけの学校でない場合を転換する場合も、すべて現在の全日制は丸々転換するという前提で考えております。

ですから、中沢委員さんからご提案いただいた学校の場合であれば、当然ながら普通科とライフデザイン科というような名称にはなっておりますが、その科も含めて転換することでお考えいただきたいと思います。

(塚田委員)

分かりました。

(小山(壽)委員)

私は定時制のある学校におりましたので、定時制の生徒と全日制の生徒というのはなかなか交流しにくいという条件があって、例えばクラブ活動にしても、定時制の子は5時から授業が始まってしまいますので、そういう面でも全日制の生徒と交流するのは難しいというところが、時間的な制約という面からいっても分かるのですが、心理的な制約というイメージでもやはり難しいところがあります。

それがしかし全員そういうことができないということではなくて、これが具体的には上田高校ですが、上田高校の定時制の生徒が1人、剣道部の子が全日制の剣道部の子と一緒にずっと練習をしまして、定通大会では強いもので3位の成績を収めた。それから囲碁将棋部の子も、定時制には囲碁将棋部はなかったのですが、全日制の囲碁将棋部の生徒と一緒に練習をして、この子はやっぱり全国大会で相当上位の成績を収めまして、その成績をもとに4年制の大学へ進学をしている。

このようにまったくないというわけではありませんが、なかなか交流しづらい。実際問題としますと、多くの定時制を併設している学校は、定時制棟という校舎を持っているわけですが、学級数だけでいってしまいますと、定時制棟の校舎に全日制が入り込んでくると。上田高校の場合もそうです。定時制棟は全日制の生徒のホームルーム教室があるという状況がありまして、何とかそこはできるだけ早く解消したいと考えて、いしましたがこのような状況が今も続いています。

もうひとつですが、各校の工夫によりということが今、定時制を持っている学校はほとんどの学校がやっております、上田高校の場合を言いますと、ゼロ時間目の授業というのもやっています。ゼロ時間目の授業というのは始業前に授業をやる。あるいは、そういう授業を受講していけば、3年間で卒業できますよというかたちで、張りだしてやっています。

それをやるためには、今度は定時制の教室ではなく全日制の教室を一部使わないとできないということで、全日制の教室も使わせてもらうのですが、今度そういうその前が、全日制はもうクラブ活動が始まっていますので、全日制のクラブ活動に支障が出るという問題があります。

定時制棟という、学校の中の1つの独立棟を持っている学校でもなかなか難しい。交流は可能ですが、それは子どもによります。多くの定時制の子は全日制の子と交流しながらない。文化祭も一緒にやります。文化祭も一緒にやって、実行委員会にも入るのですが、しかし後夜祭でも打ち上げみたいなのも、定時制の生徒は定時制の生徒だけで、定時制の食堂で実際にはやっている。

そんな状況があります。

(中村委員長)

その辺は、教育的にはやはり交流を積極的に進めるべきものなのではないでしょうか。それはやはり生徒個人個人でやることですか。

(小山 (壽) 委員)

できるだけ人間の交流をしたほうがいいと思いますので、交流は進めているのですが、なかなかやはり定時制の子が引いてしまう。

全日制の子のほうは、あまりそういう意識を持っていませんので、交流をできるだけしたほうがいいよという話を定時制の子にもするし、全日制の子にもしますので、全日制のほうから積極的に呼び掛けるのですが、どうしても定時制のほうは一步引いてしまう、そういう傾向にあります。

(中村委員長)

ご意見等ありますか。

今の人間関係の面で、交流を進めるということですが、多部制・単位制を独立校舎として、その中でももちろん仲間づくりを進めるということもよろしいわけですが、無理に孤立してやる必要はないんだということですね。

(小山 (壽) 委員)

もうひとつ。

これはある新聞に、日付が書いてないものですからいつのものか分かりませんが、これは皆さんもお読みになるかと思いますが、『どうする高校改革、私の視点』という記事で小林竜太郎くん、これは松本筑摩の定時制を卒業した生徒だと思うのですが。通信制かな。通信制を卒業した生徒ですが、これは長野市なんですか。

(中村委員長)

何回かの特集記事の1つですね。

(小山 (壽) 委員)

そうです。

その中に、こんなふうに書かれていますね。多部制・単位制高校はどのような高校かというのに対して、多くの方々が全日制普通科に対する強いこだわりを持っているようだが、まったくこだわる必要はない。全日制普通科に行くような生徒が入学しても、普通に学べる学校。

内容的にも時間的にも、普通学校ではできない特色を出せる学校だと考えればいい。少人数というニーズに応えることは必要だが、定時制の改革が求められている、少人数で夜の時間帯だけだから、人との交流が限られる。5、6人でずっと同じ人間関係でいると、しんどいと思う人もいると思う。私から見ると人間関係は固定化するという意味では、定時制は全日制に近い。ほかにも交流できる場があったほうがいい。この後はチャータースクールの提案に入っていきますが、実際にそういう場で学んできた人も、こういうような考え方を持っていることだと思います。

(中村委員長)

ありがとうございます。

はい、事務局。

(吉江高校教育課長)

いろいろと場所についてはあくまでも私どもが、検討材料という位置付けでございますし、それに新たに本日中沢委員さんからも、同じような位置付けでご提案をちょうだいしたということです。それについてはさておきまして、私どもが現在考えている、こちらの地域における多部制・単位制というようなものは、通信制を併設するという前提であるということ、それと通信制を併設するということの中で、どうしてもある程度基幹的な位置付けの多部制・単位制という位置付けにせざるを得ないというような前提を考えております。

そういう意味合いで結果といたしましては、ある程度広域的なつながりといえますが、連携も含めてぜひご議論をいただければと考えている次第でございます。なおよその県の状況、これは他県の状況というのは、あまりこういう場で参考になるかならないかというのは、もちろんあるのですが、一点申し上げますと全国的な動きとすれば夜間定時制が、いわゆる中間的な位置付け、ここでいうところの多部制というような高校に変わってきているというのが現状でございます。

その中でまた合わせまして議論いただければと思っています。

(中村委員長)

今、屋代南の名前が挙がったのですが、これは議論の経過でございますので、ぜひ特定の校名が挙がったからということで神経質にならずに、もちろんきちんとした理由説明があつての校名の提案ですので、議論の中に生かしていきたいと思いますが、第1通学区の中心のほうへ設置したほうがいいんじゃないかとかのご意見が幾つかありますが、中心のほうというところで、どんな案があるのか、ご意見等ありましたら、具体的な校名というわけではありませんが、中心のところに設置するというところで、例えば隣接の通学区との関係等、そういう課題もあるかと思います。その辺何かご意見はありますか。

中心というのは、例えば長野市内とか、そういうイメージでしょうか。長野市内というとかかなり広がってしまいます。

(小山(元)委員)

提案しましたので、お話ししたいと思います。

2回ほど前のときにそのようなことを申し上げましたが、やはり高校生は公共機関を使って通学することが多いと思います。中には年齢に達しているからバイク通または自動車通で通える生徒さんもいらっしゃると思いますが、大半は公共機関を使うということを考えると、それぞれ長野電鉄、またしなの鉄道、飯山線もありますし、それから中央西線、信越本線というのもありますから、そういうところから考えてやはり交通の便のいいところという、中心の地区になるのではないかと思います。

そういうことから、生徒の通いやすい立場ということで提案申し上げているわけです。

だから具体的な高校の校名は、私自身今のところ持っていませんし、申し上げるつもりもございませんが、検討材料のひとつとして、ちょっと考えてみたい、そういう立場です。

（中村委員長）

相当前だったと思いますが、生徒の中には車やオートバイを利用することが可能だところがありましたので、その辺もお考えになりながら、どなたかご意見ありますでしょうか。

先ほど事務局のほうから、通信制を併設するということでお話があったのですが、これはスクーリングの問題もあるでしょうが、配置に関して、それほど影響するものなのでしょうか。

（吉江高校教育課長）

当然ながら、まずひとつとしますと、長野市内にも確かに現在は通信制の学校はございます。その学校が利便性がいいかどうかというのは別議論でございます。そう言いますのは、現在は松本に通信制が1校、それから長野に通信制が1校という配置になっていまして、それでスクーリングとかの問題が出ているということはあろうかと思っています。

それでただ、私どもがもう1点申し上げるとしますと、多部制・単位制はいい位置付けであれば、もっとつくるべきではないかという議論のところも中にはございます。

ただしかしながら、先ほども若干申し上げたような全国の方角は、方向ではありますが、取りあえず今回、最終報告にちょうだいいたしましたように、各通学区にまずは1校ずつ配置させていただいて、その状況を見て今後場合によりますともちろん多部制・単位制というのは増えてくる可能性はありますが、まずは配置を上げたい。

それで配置申し上げます場合に、どうしてもそういう位置付けで配置いたしましたら、数もそんなに多く配置しませんし、それと他地域との連携というようなこともある程度考えながら、また今のお話の通信制というような位置付けも考えながら配置していく中で、どうしても多部制・単位制について、特にこの長野市内というのは恐らくはよその地域以上に他の地域とのターミナルが割合といい地域だと思っております。

ですからその辺も含めての、全体的な観点でご覧いただければと考えている次第です。

（中村委員長）

そうですね。全体を考える上で、例えば第2通学区、隣接通学区との議論というのも可能ですね。

（吉江高校教育課長）

その点では、当然ながら第二推進委員会もこちらのほうの第一推進委員会の議論によりまして、多部制・単位制の位置の議論というのは出てきようかと。そんなような発言が、事実第二推進委員会の委員さんの中からは、過去出ている経過もございます。

（中村委員長）

まだほかにございますか。

(塚田委員)

その意味でお聞きしたいのですが、第2通学区では今、野沢南が候補で挙がっているのですが、その辺の位置については、何か議論がもうされているのでしょうか。

(吉江高校教育課長)

どちらかと言いますと、今のところ多部制・単位制を野沢南ということをして、じゃあ違うところがいいんじゃないかというような議論にまでは至っておりません。どちらかというところ、多部制・単位制につきましては、一部の委員ですが、一部の委員の発言の中では、これは第1通学区との絡みがあるので、もうちょっと様子を見たほうがいいんじゃないかというような発言があった次第です。

ただ、もちろん委員会の総意としてそうなっているわけではないということでご理解いただきたいと思います。

(中村委員長)

発言が、そろそろ途切れてきていますが、今、多部制・単位制に関して候補案が、県教委案と、それからもうひとつ挙がってきています。それともうひとつ通学区の中心のほうへということで、それも案と考えますと、最終的にもしそれ以上でなければ、その3つの中から良しあしを検討しながら、決めていくというふうになろうかと思います。

そういう上では、議論は今しておかないといけないと思いますが、数字の面は事務局から資料は提出していただくとして、議論のほうをもう少し進めたいのですが、今、挙がっている3つとしてよろしいでしょうか。3つの案に関して、もう少しご意見ございませんでしょうか。

(中沢委員)

多部制・単位制というようなものを、定時制の中を焦点にするということ、これは当然なことであるが、もう少し単位制そしてフレックス単位制というように、新しい学校への前進だよといった面でのとらえ方であったらいいのかなと思います。

そういう意味におきましては、今後将来に向けて少子化社会に向けて、どういうふうに対応していくかということが、また大事な根底になっていく。私が冒頭申し上げていたのは、まず半年前の高校改革、そういう多部制・単位制はほしいんじゃないかと、それが当然じゃないかと、合わせて須坂、あるいは千曲市だと、こういう提案であったわけですから、長野市内ということになれば、私が思う一番のことなのです。

ただ、県の中では将来的にはそれも大事だが、長野地域、上田地域、ついでには佐久地域までのひとつの拠点として考える場合にはしなの鉄道沿線という提案があったわけですから、その提案の延長線で考えれば、私はかくかくと思うということの提案でございますので、今委員長さんが言われるように1つ、2つ、そしてまた3つを、より皆さんで具体的な提案をしていただければ、それに越したことはないとは私はそういう理解をしていますので、よろしくお願いします。

(中村委員長)

議論の先を考えますと、やはり集中して多部制・単位制の議論を深めていきたいと思えます。ぜひご意見があれば、今意見をお出しただいて議論があまり戻らないようにしていきたいと思えます。

例えば長野市内で考えるとしたら、独立校舎でというふうになれば、やはり転換をしていくということですね。そういうことが可能かどうかというところかと思えます。おそらく普通科が多いと思えますから、普通科のクラスが大幅に減るということですね。

（森野副委員長）

子どもの実態はどうなっているのですか。実際にどの程度の。

（中村委員長）

実態というのは。

（森野副委員長）

通学している、学習に向かっている生徒は。

（中村委員長）

それは定時制への通学者ということですか。長野市内でということですか。

（森野副委員長）

はい。

（中村委員長）

資料は確かあるはずで。

事務局、説明をお願いします。

（三澤教育支援主事）

「候補案について」という前回の資料、11 ページをご覧くださいと思います。平成 13 年度から平成 17 年度までの現在の定時制、中野実業高校から東信まで含めまして野沢南高校まで、募集定員、入学者数、それと 1 年生から 4 年生までの在籍者数ということで、人数をお載せさせていただきますので、ご参考にしていただきたいと思います。

（森野副委員長）

そうすると拠点校というのも、ちょっと私の考えが間違っているかと思いますが、拠点校をどこかに決めると、それと箱押しみたいに点にしていっていかげんですか。これはなかなか決まりにくいのではないのでしょうか。

だから長野なら長野、あるいは屋代なら屋代、拠点校、そして出張授業というようなたちで。面といいますか、点といいますか、そこへ教師が出張していくと、そういうことは不可能なのかね。

私が言いたいのは、学ぼうとしている子どもを大事にしたいということなんです。それ

なりに、教育できる、学べる機会というものを多く持ってもらいたい。それが公教育じゃないかなと、そんな点で申し上げたわけです。

（中村委員長）

多部制・単位制高校のひとつの大きなメリットとして、独立校舎というのが考えられているんですね。ですから拠点校というよりは、独立してやっていくというのが最終案のご提案であるというふうに思います。

この辺についてのご意見はいかがですか。

（宮本委員）

校舎のことなんですが、独立校をつくるにあたって以前にも事務局のほうから説明があったと思いますが、それほど時間を要することがないため大丈夫だというような話だったのですが、敷地や建物とか、その辺のところについては独立校をつくるので財施的な面もありますが、期間とか転換するにあたって問題点、制約というものはないのでしょうか。

高校によって、転換が難しいと思われるところは、ないのでしょうか。

（中村委員長）

先ほど、吉江課長さんのほうからは、丸ごと転換するというお話でしたので、規模が関係してくるのではないのでしょうか。

（吉江高校教育課長）

多部制・単位制で申し上げますと、まさしく委員長さんのお話がありましたように、私どもはいわゆるそのままを転換していくと。極端な例で申し上げますと、在校生が2、3年生が残っている段階で、多部制・単位制の第一期が1年で入ってくると、それで2年目には第二期、第三期で、それで完成形になるというようなかたちで考えていますから、その校舎を多部制・単位制の場合には丸々使おうという前提で考えています。

ですからそういう意味では、多部制・単位制の場合に、大きくハード的な整備が必要になるとは考えておりません。また前回の委員会でもお話がございましたように、若干のハード整備が今後必要になる学校というのは、多部制・単位制はあまり考えておりませんが、ほかの学校の場合にはあり得るかとは思っております。

ただそれは、同時進行である程度整備した経過が、例えば塩尻志学館高校等がございましたので、そういうような工夫の中でハード整備もやっていけるのかなと考えている次第でございます。

（小山（壽）委員）

多部制・単位制もハードにかけてもらいたいと思います。

というのは多部制・単位制の一つの良さというのは、生涯学習のセンターという意味合いがあるんです。そうすると生涯学習センターにするためには、学校というのは大体、誰でも入って行きやすいようにはなっているのですが、機械警備にしましてからは、非常に入りにくい状況があるわけですね。

そうすると生涯学習センターとして自由に使うためには、例えば調理教室には外から入れるとか、あるいは図書館も中を階段を上って行って行くのではなくて、直接1階から外から行けるようにするとか、あるいはコンピューター教室についても、地域の人の学習のために2階であってもいいのですが、そこだけ戸締まりできるというような、そういう仕組みづくりがあったほうが、多部制・単位制は生きると思うんです。

そういう意味では、総合学科のようなもの、そういうものを整理していくというのはちょっと違うのですが、生涯学習センターとして機能するような、そういう設備、整備というようにハードの面でもお金をかける必要がある。そうじゃないと、生涯学習という観点、あるいはさまざまな年齢を超えての交流という、そういうような観点でもこの多部制・単位制の良さというのは生きてこないのではないかと思います。

(中村委員長)

事務局どうでしょうか。

(吉江高校教育課長)

ただいま小山(壽)委員さんからご提案をいただきまして、ちょっと私は十分な説明をしなかったかと思ったのですが、宮本委員さんのご質問に対してお答えする意味で、非常に大きなハードの整備というイメージでお答えしてしまっているのですが、当然、小山委員さんがご指摘いただきましたような意味で、学校の使い勝手をよくしなければ、多部制・単位制はいけない面があると思います。

さらには今お話しいただきましたように、いわゆる社会人教育的な要素、どういう分野を取り入れていくかによって、敷地の問題などが当然出てくるかと思っていますから、そういうようなものにつきましては、今後学校がどんな形になるかというのを見極めた上で、必要な整備はしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(中村委員長)

第1通学区の中心のほうへというところから、校舎の面で、どんなところに配置可能なのかどうか、そういうご質問だと思いますが、丸ごと転換してさらに社会教育のほう、使い勝手の充実も考えても、ある程度の規模があれば可能だということですね。

ほかの高校に関しても可能だというふうに解釈してよろしいと思います。

(坂口委員)

今、小山(壽)委員さんのお話、非常に大事なところかなと思ってお聞きしましたが、生涯学習をセンターとしても、広くこれから多部制・単位制が使われていくと。これは再編後のイメージのところに、多様な生徒ということになるわけですが、多部制・単位制高校の柔軟化というところを据えることが重要であると、これは非常に大きな今後の課題だと思います。

そうしたときに、広域な生徒募集が可能である坂城がいいのか、もっと広い先を見通して将来的にそういう社会教育、生涯教育、生涯学習という立場から考えて、もっと違うところが本当に必要とされてこないかどうか、その辺ちょっと私も分からないわけでありま

すが、さっきから聞いていればあくまでも生徒募集で一番いいと、そういうふうにとらえてよろしいでしょうか。

（吉江高校教育課長）

私どもが想定した折には、そういう考えでやるということです。

（坂口委員）

なるほど。

そうすると、先ほどから交通の利便性という、多くはしなの鉄道とか、そういうレールに乗っているのですが、実際の高校生はかなり自転車とかを日常的に使われるのではないかと。もちろん一番確かなのは、そういう交通公共機関になるかと思うんですが、そうしたときにいろいろな交通が入り込んでいるということになれば、千曲市の長野電鉄との絡み等々で若干違うところも見えてくるかもしれませんね。

ですからどこの学校ということになると、非常に難しいわけですが、将来的に見てもこの多部制・単位制の学校の良さを生かすにはどこがいいか。それでまた視点も変わってくるのかということ、ちょっと思いました。以上であります。

（中村委員長）

生涯学習の視点というのは、具体的には計画をするのでしょうか。それはまだですか、将来的には、ということですか。

（柳澤教育主幹）

前にお示ししましたイメージで、県のイメージの中にも生涯学習のことで資料が中に入っていたかと思いますが、具体的な講座名で信州の文学ですとか歴史だとか、いろいろな例が出ていたと思います。

現在松本筑摩高校では、昼間部・夜間部で単位制を発足した時点から、土曜日に地域の皆さんにもお声を掛けて、もちろん在校生も含めてであります、土曜日に講座を設けました。

例えば当時パソコン入門というような講座は、パソコンの台数を超える近隣の住民の皆さんからご希望があつて、ちょっと来年まで待ってほしいとか、そういうような状況もあったわけですが、現在もそういった形で土曜日には開講されています。

そのような視点で、そのほかにもいろいろなバリエーションで考えられるかというふうには思っております。

（中村委員長）

設置とともに、それは設定していくということですね。多部制・単位制高校を設置したら、同時にそういう講座も設けていくということですね。

(柳澤教育主幹)

現在は、そんなイメージを持っているということでございます。

(宮本委員)

坂城高校の多部制のことについてもあるのですが、先ほど地域、場所の利便性のことを話したのですが、そのとおりだったのですが、私自身もずいぶん行って思ったのですが、事務局からも出ている「再編後のイメージ」のところに、職業教育ということがあって、坂城地区の地域の人たちの人柄や、あるいは産業だとかということも、かなり坂城を選んだことについてのそれぞれの利点として考えていると思うんです。

そのことについては中沢委員のほうから、また千曲市とかいろいろ話がありましたが、やはり場所だけではなくて、そこに住む地域の人たちのバックアップがなければ、やっぱりいい高校ができないのではないかと思います。

それと先ほども小山(壽)委員、また中沢委員からも出ましたが、新しい多部制・単位制ということで、ぜひ何かを一緒にしてまとめるということではなくて、新しいイメージでハード面も先ほどお金をかけてほしいということがありましたが、私自身も車で来るならばある程度駐車場がなければいけないとか、いろいろとそういうことも思いまして、その他魅力ある、中学生が来たいと思うような多部制・単位制を目指して、どこの地区にすることがいいのかということ論議してほしいなと思います。

以上です。

(中村委員長)

ご意見ありますでしょうか。

だいたいが議論いただいて、ちょっと停滞気味ですが、今日は、多部制・単位制中心にさせていただきました。新たなご提案が具体的にありましたので、これは引き続き、また1回おきますと、次の回にご意見がでるかというふうに思いますので、引き続き続けていきたいのですが、この次を想定しまして、また検討していきたいと思います。

もうひとつ大きなテーマで、総合学科高校の設置ということになってようかと思いますが、あと、30分程度ですので、議論の取っ掛かり、またお帰りいただいて、ご検討いただくうえでもちょっとこの辺を最後のところで触れておきたいと思いますが、そういう進め方でよろしいでしょうか。

総合学科高校に関して、こんなところの議論を進めたほうがいいんじゃないかというようなご意見など何かございますでしょうか。ちょっと突然すぎますかね。なかなか難しいので、準備段階をおきながら進めないといけないかなという気がしています。

(丸山委員)

ちょっと、今の多部制・単位制についてのことで、今日検討してほしいことがあるんで、それをちょっと述べます。

例えば今3つの地域、たたき台を含めて3つの地域の話が出ていますが、長野地区、長野市で長野地区といった場合に、どこの学校を転換するってことになる、かなり大きな学校といいますが、そういう可能性が出てくる。そうすると全体の募集定員というか、枠

の問題が出てくるので、それはやはりほかの問題にもかかわってくるということで、また方法を考えてもらいたいなということです。

総合学科については、私は前にも提案というか、資料を提出いただいているんですが、総合学科の問題については、やはり1つは職業科を転換していくというか、統合、今度の場合には中野地区が出ているわけですが、そういう1つの職業科がなくなるという問題ですね、そこがどういうふうになるのかというところが大きいというふうに思うのです。

この前資料を出したものについては、総合学科は職業高校に変わり得ないんだと、職業教育には変わり得ないんだと、別な学科であるという場合には、それをつくっていく場合に、職業高校がなくなるという問題。それから、統廃合でもう一方の学校の、この場合は中野の場合、中野高校ですけれども、そういう普通科がなくなるという問題があるんですよね。

これはやはり統廃合とのかかわりがでてくるので、そういうことでいいのかという、その地域でそういうことに、工業科やそういう一定の役割を果たしている普通科がなくなっ

ていいのか問題が、ひとつあると思います。
それからもうひとつ、やはり皐月との関係ですね。これをどう考えるのかというのは、非常に大きい問題だなというふうに思って、この前も提案したときと同じですけど、その辺の議論もしてほしいなと思います。

(中村委員長)

また具体的な、もうちょっとこうしたほうがいいんじゃないかという、提案を中心に議論していきたいと思います。今ご提案いただいたことも、そのことというふうに思います。

ほかになにか論点、あるいはこの2週間か、3週間後にもう1回開催しますが、それまでに皆さんで考えておくべきことなどございますでしょうか。

(小山(壽)委員)

議論のスタートのときに高校の魅力づくりということがあったのですが、どうしても統合の対象になっている、新しい多部制・単位制、あるいは総合学科に議論が集中していきますし、また今後、中条、犀峡の問題、飯山地区の問題についても、恐らくたたくと思いますが、これは統合対象になっているところだけではなくて、別の、統合対象に挙がっていないところでも、システムとしての魅力づくりを考えている学校もあるだろう。そういう部分についてはこの中で議論がされるのか、されないのか。

その辺についてどうでしょうか。

(中村委員長)

もちろん魅力づくりということで、最終報告に挙げられているのは、多部制・単位制、総合学科高校という、システムのお話が挙がっています。そのほかにも魅力づくりのシステムがあり得るということですから、それも当然議論していくべきだと思います。

やはり具体性が必要ですので、資料等がもしあれば提示、事務局のほうに準備いただくというような形をとっていきたいと思います。

(丸山委員)

いいですか。

今まで、前回からたたき台のところの議論に入ろうという話しになったのですよね。そこで坂城、中条、長野南が出ましたが、たたき台の案について、いろいろ疑問とか、問題点とか、課題とか、そういうことをやっていく中で前は坂城の問題がかなり集中的になって、今日は多部制・単位制の関係でいろいろ出てきたわけですね。そういう流れで、今度例えば中条の問題、中野、中実の総合学科に転換、統合して転換と、そのところをやるんだったら、その案についてどうなのか、どういう問題があるのかという検討するということだと思うんですね。

あとは残っているのは、長野南がまだ十分議論していないわけで、長野南は松代と統合ですよね。中条の問題も、前回ちょっと出たぐらいですね。あと飯山の問題があるわけです。

一度、だからたたき台に乗かってやるのがいいのか、それについての疑問とかを考えていこう、分析をしてきたということでしたら中野や中実の問題について、そういう流れでいい気がします。

(中村委員長)

そうですね。多部制・単位制もそこからスタートして具体的なご提案がありましたので、総合学科に関しても、候補案ですね、「たたき台」は使ってはいけないようですので、候補案に関してご議論いただきながら問題の指摘、あるいは代替の案、代替案、そちらがいいものがあれば、示していただきたいというふうに思います。

候補案にない魅力づくりに関してはどうなるのかということですが、これはもちろん挙げていきたいというふうに思います。今議論の取り掛かりとしては、候補案に挙がっているものが、最初にやりやすいかなという気がしますので、次回は、多部制・単位制も1回おきますと、また議論も進むと思いますので、その辺も含めながら総合学科のほうへ進めていきたいと思います。

それには今、丸山委員のほうからあった、皐月との関係や、職業科に変わり得ないのではないかと、いろいろまだ課題がある、それを含めながらということだというふうに考えています。

(丸山委員)

さっきのものに補足しますが、前にもお聞きしたことがあると思いますが、私の考えは、自分の学校がかかっているということもありますけれど、年代的に考えると、中野、中実、中野地区の総合学科というのは非常に分らないんですね。それはなぜかという1つは、さっきも言いましたが中野実業高校の工業科、特に工業科の中心とした職業科がなくなることは、本当に地域にとっていいのか。この北信全体にとって、長野工業だけの工業科でいいのかと、これは産業界に関しても本当にいいのかという問題が、非常に大きな問題としてあると思います。これは総合学科では、まったく替わり得ないと思います。

それからもうひとつ、中野高校は今、これは私の独自の意見ですが、正直に言って中野高校の先生たちにも、あるいはほかの先生たちにも、ほかの意見もあると思いますが、私

の個人的な意見では、中野で教育活動をして思うことは、今の子どもたちは、中野高校の背負っている役割というものが、率直に申し上げて、生徒もいろいろな困難抱えて、いろいろな問題を抱えて、家庭の問題も、経済的な問題も自分のトラブルの問題も、自分の生活の問題も、行動の問題もいろいろな問題を抱えている子たちが多いですね。

そういうのを、丁寧に、大変な苦勞をしてやっているわけですね。それも普通科として、そしてその中で、コース制をつくって、彼らの多様性にある程度応えながらやっているわけですね。そういうその普通科でじっくり学力をつけながら、あるいは生活の基本的なルールや、基本的な生活習慣も含めて、地道に丁寧にやっていくという、そういう学校が今、前にも規模の問題で議論がありましたが、そういう学校が小規模できちんと普通科としてあるということは、ものすごく地域では大事だというふうに思うわけです。

それは、その学校の先生たちはすごく苦勞します。私も正直に言って苦勞します。けれども、そういうふうな普通科の学校があるということが、すごくその地域の生徒たちにとって、一番悩んでいる、一番問題を抱えている生徒たちにとっては大事なんですね。それは総合学科ではできないと私は思うのです。そういう子が行き場所がなくなるという問題があるわけです。

そういう2つの大きな問題が、やはり中野地区にそれをつくるというのがどうして中野地区なのかというのが分からない。この候補案を見て、そこがちゃんと説明ができていない。なぜ中野高校にそれが必要なのかというのは、ただ単純に皐月とのバランスですね。地理のバランス。それから皐月があるから皐月の近くにはできないと、そうすると少し離れた場所ということですよ。

それからもうひとつはたまたま学校も、2つの学校が近いと、それから中野地区も多少減るという、これも私は議論があるんですけど。そういう問題というしかないですね。そういう点では中野地区での総合学科という問題は、非常にその地域の学校、どういう学校が地域に必要なかという問題から考えると、非常に大きな問題を抱えていると思います。じゃあどうするかについてはまだ分かりませんが、言いたいことはまだ残っています、ちょっとまだできていませんので、またいずれ発言したいと思います。

(中村委員長)

ほかに議論の観点といたしますか、何ありましたらお願いします。

(宮本委員)

初めに青木市長さんのほうから、地域の様子を話していただいたことがありましたが、地域をあげていろいろな学習をしたり、前向きに考えていただくというようなことを、かなり充実している懇談会が立ち上がったということもありますので、ぜひ、次回るとき、また他方面のいろいろな意見、あるいはそういう意見を出していただいて、本当に地域の人がどんなふうに考えているのか、ということを発表していただければと思います。

(中村委員長)

時間的といいますか、今の地域の議論と、この推進委員会の次回とリンクするような私たちというのは、時間的に厳しいと思いますが、青木委員いかがですか。

(青木委員)

はい、委員長さんがおっしゃるとおり、この委員会のタイムスケジュールにのっとって、私どもの議論するタイミングの時期がずれてしまってでは、何の意味もないので、実は見比べながら、私も7月以来、多少なりともかかわって今日まで来ているわけです。

ですから私どもはこれから21日に40人規模の関係する地域の皆さま一堂に会しての学習会、そこで、方向性を見いだしてなんとか10月の中ごろまでには、もうちょっと地域全体での、中野地域で高校、どうあるべきなのか、また地域における高校教育の在り方、また地域が期待するもの、等々子どもを交えてその話し合いをできたらいいなと思っているわけですから、事をせいて多くの方々の意見を聞き逃してはいけないので、そのスケジュールだけは多くの人のお声を聞けるようなスケジュールにのっとってやっています。

でありますからこの進行状況とずれないように意識しているのですが、多少心配する面がございます。

先ほど丸山委員さんのほうから、現実には中野高校の現場を預かる先生の立場として、またもうひとつ幅広い見識の中で、素晴らしいご意見の提示がありましたけど、それを先ほど来、話し合っている中に随所に出てくる対象校にならなかった地域が、いまいち、私どもの、こういうことを考える我々からすると、温度差がちょっとあるということについてということがありましたけれど、まさにそのとおりでありまして、同じ地域の中でも実は、中野実業高校、中野高校という最初から出た高校なり、また特に思い入れがないというのも結構正直言っておりますから、そういった方はどうしても議論の場の中に、テーブルの中についてこない。

でも私も立場がこういう立場でありますからこそ、できるだけ多くの方々の、同じテーブルに着いて議論し合うということは大事だというふうに思っていますので、実は行き着くところがどういう地域の運動展開になってくるかということは、今ちょっと不明であります。でありますから今日、私が意見を申し上げる場面がなかったので、あえて今日は拳手しなかったのですが、もうちょっと地域の皆さんの思いが私の頭の中に、集約してくると、ものを申し上げるようなことになろうかと思うのですが、私はこの総合学科高校という、ひとつの新しい形態を、県教委から私どもの地域に投げられたと。ある意味で、スタートラインに着くようにノミネートされたということは、これは軽く受け止めないで、重く受け止めて、やはり総合学科高校はどうなのかということ、幅広く多くの方々と意見交換し、議論を重ねていく必要があるかと、そんな認識で今いるところでございます。

(中村委員長)

ありがとうございました。これから本格的に地域で議論をされていくということで、多少、やはり推進委員会とはずれがある、ずれというのは時期的なものがずれてしまうかなという気はしますが、推進委員会のほうには推進委員の皆さんで地域の情報を得ながら、独自に議論をしていくのがひとつ、大切なことだと思います。

どうしても、地域に限定してしまいますと、その範囲のお話になります。推進委員会の役割はやはり第1通学区内でのシステムを考えていかなければいけないので、こちらの議論をある程度独自性を持ってやっていくべきというふうに考えています。

今日は多部制・単位制中心、3つの案というふうにしていいのか、ちょっと分かりませ

んけれど、県教委候補案、それから中沢委員ご提案の詳細な案、それともうひとつ中心部にという、これは具体的に提案をしないと、たぶん俎上（そじょう）に載らないような気がします、どこかに配置すると仮定してというような資料をつくって、検討するのは可能だとは思いますが。

この3つの案が挙がってきていますので、それについて1回おいて、少しお考えいただきたいと思います。意見をまとめていただいて、また次回検討し、引き続き議論したいと思います。

総合学科高校に関しては今、幾つか論点を挙げていただいています。ずっと、前から挙がってきている点ですが、今度はやはり候補案の詳しい説明がありましたので、それに対する意見と、魅力づくりと絡めて、より具体的に次回ご審議いただければいいと思いますが、そんな進め方でよろしいですか。

（丸山委員）

それとの関係で、時間がなければ次回でいいんです、今日出してもらった福島県の関係のことで、候補案について、総合学科について、パターンが幾つかあるんですね。この福島のものでは、普通科と単独で総合学科に変える学校とかがありましたよね。普通科、農業科とか、というふうになっているというところもあると、これは単純に考えた話し、統廃合ではないんじゃないかということですので、あるいはこれは普通科とか、農業科とかが併置される学校が切り替わったのかなと思いますが、候補案をいくと中野地区は2校の統廃合なんですね。ところが丸子は違いますよね。

そういう単独の学校で総合学科に変えなさいというのと、2校一緒にして変えなさいというのは、動機として、どういう違いがあるのか。それからもうひとつ、県教委の考え方として、普通科からの転換というのはまったく考えていないのかどうか。この福島県の事例では、普通科からの転換ではないのかなと幾つかは読み取れますが、その辺を次回で結構ですので、ちょっとまた説明をお願いしたいと思います。

（中村委員長）

事務局いかがですか。

（三澤教育支援主事）

はい、分かりました。先ほどの福島県のことに加え、それも含めましてご説明申し上げます。

（小山（壽）委員）

もうひとつ資料を用意していただきたいのですが、恐らくすでにもらったものがあるかもしれないのですが、普通科、いわゆる職業科、それから専門学科、その他というような感じで、進路状況を出していただきたい。

進学がどのくらいいるのか、就職がどのくらいいるのか。できれば、工業と、商業が中野実業にありますので、工業、商業の進路先、少し詳しいものがあればありがたい、そのように思っていますが。

(三澤教育支援主事)

進路状況を学科別のものということで、今までも検討委員会等でも出ているものがございますので、用意させていただきたいと思います。

(小山(壽)委員)

できれば、農、工、商、あたりで。

(三澤教育支援主事)

はい、分かりました。

(塚田委員)

私もそれに非常に興味があったもので、この学校要覧 25 ページに就職先一覧というのが載っていて、中実のが載っている。このニッターというのはこの委員会にいる、牧さんであったりするのだけれど、やはり先ほど丸山先生からお話があったように、経済界ではどうなんだというお話があったものですから、その辺、私のほうでも知り合い等、経済業界とおして調べてみたいと思います。

(中村委員長)

いただける情報のご準備をお願いしたいと思います。

ほかにございますでしょうか。

それではあと 5 分ほどですので、簡単なまとめをして次回の計画をしておきたいと思います。

多部制・単位制についてかなり深く論議をしていただきまして、3 つ案が挙がったという段階だと思います。やはり中心部に置くということを俎上(そじょう)に載せるには具体的なものが必要かというふうに思いますので、何かお考えがある方は次回ぜひお示しいただきたいと思います。

また、今日は、具体名で屋代南ということで挙がりましたが、それに対する生徒の動向とのデータは事務局のほうでお調べいただいて資料を準備していただきたいと思います。

特に報道の方をお願いしたいのですが、校名については議論の経過でございますので、決まったことではありませんし、今後も幾つか、校名が挙がってこようかと思います。推進委員会の委員さん方、やはり公開の場で具体的な名前を挙げるのは、かなり今のところはまだ勇気があることだというふうに私は思います。私自身もそうです。それは、一般には推進委員会は高校つぶす議論をしているというという誤解をされている方がまだいらっしゃいますので、そういうことを思うと、なかなか自由な発想で確かなデータに基づいて議論するということに、多少壁があるかなという感じをしていますので、ぜひ報道の関係者の方はその辺をお考えいただいて、あまり決まったことというように捉えられるような報道の仕方は、できるだけ避けていただいて、審議の経過であるということを、ぜひご説明いただきたいと思います。

次回ですが、多部制・単位制に関してはできれば中心部に置くという具体案が、もしもなたか出していただければ、その辺がよろしいかなというふうに思います。またもちろん

今挙がっている高校名だけでなく、こちらのほうがよりいいんじゃないかというのも、また議論していけばと思います。

総合学科については、今議論する上で課題等が、これだけではないとは思いますが、いただきましたので、ご関係の方、それからご意見のある方、ぜひ具体的な案等、提案、データ等のご準備をいただいてご発言いただければよろしいかなと思います。

このようにやっていきますと、大きな柱が幾つか挙がってきますが、まだいろいろな魅力づくりの面では、検討を深めていないところが、あるかと思います。これまでの推進委員会である程度案が挙がったようなことでも、そのままになってしまっている部分もあるかと思いますので、その辺もまた取り上げていきたいと思います。また皆さんからの進め方に関するご提案もいただきながら進めていこうかと思いますが、それでよろしいでしょうか。

進め方、それから多部制・単位制、総合学科、そのほかの話で、何か特にございますか。

それでは、次回の日程など事務局のほうからご説明をお願いします。

そろそろ議会が始まって、なかなか大変かと思いますが。

（三澤教育支援主事）

各委員さんの、いろいろ所用等、忙しい時期でありましてなかなか日程が難しいところがございますが、今のところ、21日の午前中あたりではどうかと考えております。ちょっとまたいろいろ様子をお聞きしながらご連絡をさせていただければと思います。

よろしくお願いいたします。

（中村委員長）

ありがとうございました。それではよろしいでしょうか。

それでは第7回推進委員会をこれで終了させていただきます。

どうもありがとうございました。